



新しい地域自治の仕組みづくり…「地域運営組織」の試行始まる

「わかつく」第309号では、自治会・町内会をはじめとした各種地域組織の運営が困難になり始めているケースがみられるという話題を取り上げました。一方で地方部を中心に、新しい「地域運営組織」の設立を目指す動きがみられるようになってきました。現在組織の立ち上げに向けて取り組みを進めている、関西のある自治体A市の試みを探りました。

A市の考える「地域運営組織」の例

部門	主な担い手
総務部門	●連合自治会 ●自治会・町内会
健康福祉部門	●社会福祉協議会 ●老人クラブ ●民生児童委員
防犯防災部門	●自治会・町内会 ●消防団 ●自主防災組織
教育・子育て部門	●こども会 ●PTA ●学校 ●校区協議会 ●青少年育成協議会
まちづくり部門	●事業者 ●NPO ●自治会・町内会

※あくまで例示であり、地域の実情に応じて部門や担い手は異なります

A市の考える「地域運営組織」ができるまで

- 1年目**
 - ・住民を対象とした意見交換会等で、住民のやる気を高める
- 2年目**
 - ・活動や組織のあり方を考える
 - ・概ね中学生以上を対象とした住民アンケートによる地域行事等の「棚卸」を実施
- 3年目**
 - ・活動開始や組織化に向けた準備
 - ・地域運営組織の活動開始(※)

※必ずしも新しい組織をつくらなければならないということはありません
既存の組織を「地域運営組織」に位置付けることもできます

強烈的な課題意識
A市はいわゆる「平成の大合併」により周辺の複数の町村を併合し、大きな自治体となりましたが、合併直後から人口の減少に悩まされるようになりまし。近年では旧市街地の人口減少も顕著で、合併以降の約15年間で市の人口は1割以上減少し、今後も減少傾向は変わらないという推計が出ています。かつては日本人だけではなく、インバウンドの外国人も含めて観光客が年々増加しており、町の活性化に寄与すると期待されていましたが、コロナ禍で観光業は壊滅的なダメージを受けました。今年の春以降、観光客は徐々に戻り始めていますが、まだ十分ではありません。

そこでA市では、海外や周辺自治体からの観光客の誘客に加え、市内住民同士の交流も生み出す取り組みを通じ、「交流人口」の増加を図ることで経済効果を生み出す方針を打ち出しました。同時に、高齢者の増加と過疎化の進展で運営に手詰まり感がある自治会・町内会のあり方を見直す方針を示し、今後も継続するであろう人口減少の状況下でも住民が主体になつたまちづくりができないか、検討を進めています。

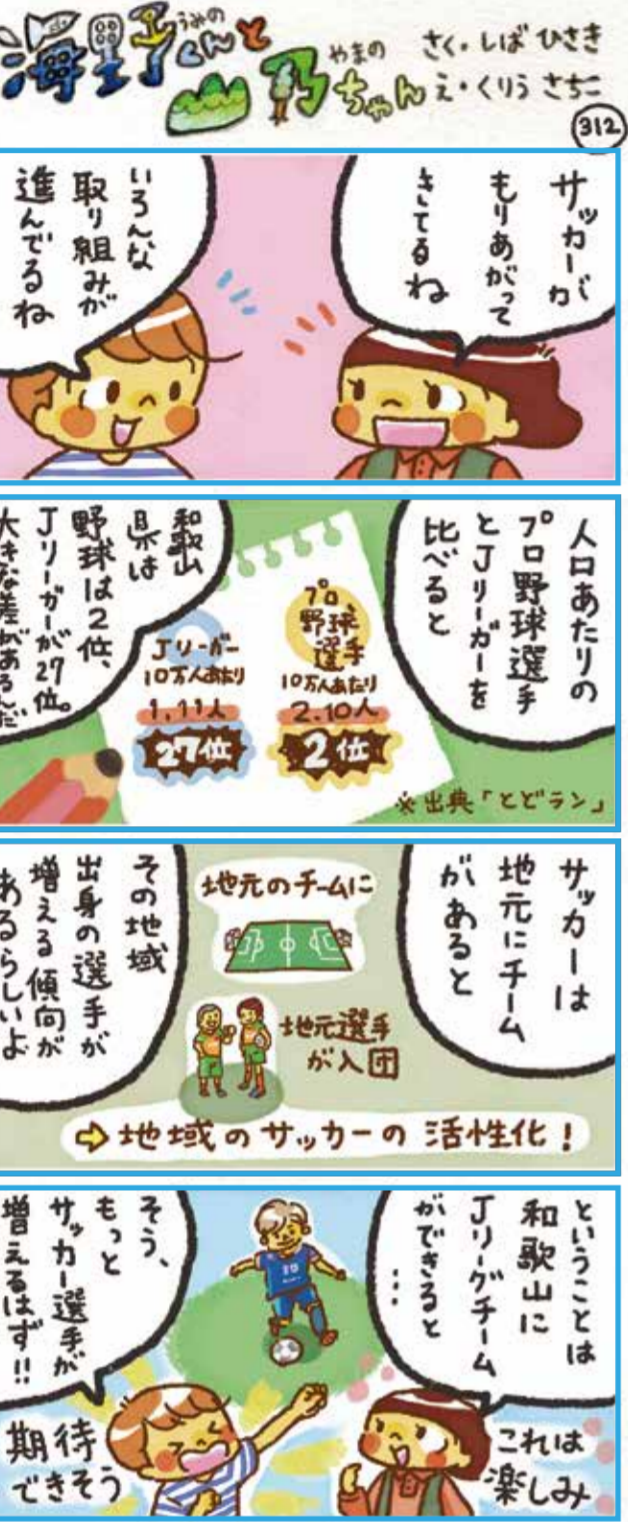
地域の実情を知る
まずA市では、他県の事例をベースに、全市を20程度のブロックにわけ、国勢調査の「小地域集計」のデータを活用し、過去20年の人口の推移を確認し、このまま進むと5年後、10年後に地域の人口がどうなるかを住民自らが探るワークショップを開催しました。参加した住民自身が地域の人口推移を改めて確認し、

組織づくりの試行へ
これらの結果、少ない住民が「このままでは地域がもたない」というイメージを共有できたとして、「地域運営団体」の組織化に向けた動きを順次進める計画です。A市は人口が比較的多い旧市街地から、人口減少と高齢化にあえぐ過疎地域まで、幅広い性格の地域を抱えています。そこで今年度は、旧市街地から1地区を選んで「地域運営団体」づくりの試行を実施。ノウハウを蓄積させて、来年度は中山間地域や過疎地域も含めてさらに2地区で試行を進め、その成果をもとに制度を見直しながら全市に広げていく構想です。

新たな担い手の育成
ややもすると義務感が強い自治会・町内会の負担を減らし、地域の様々な主体が参画できる「地域運営組織」の本格導入に向けた準備が進められているのが確認されています。また県や総務省の事業を活用した過疎地域活性化事業も各地で行われています。「あがらの町ことはあがらの手」という意識がどこまで根付き、町のことを自分たちで考える取り組みが今後どのように広がるか、注目されます。(志場久起)



田辺市で開かれた今後のまちづくりに関する研究会(2021年2月)
田辺市は橋本市とともに地域運営組織導入に向けた準備が進んでいます



地域運営組織は総務省をはじめ複数の省庁で議論が進められています
総務省「地域力の創造・地方の再生」サイト内の地域運営組織に関するページ
https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/chiiki_unneisosiki.html

みなさんの「地域を元気にする」活動を応援します！

NPO・ボランティア団体データベースをリニューアルしました！

和歌山県 NPO サポートセンターが運営する和歌山県 NPO ホームページ「わかやま NPO 広場」では、県内の NPO・ボランティア団体データベースを刷新しました。是非ご活用ください。

- ✓ スマートフォンでもスムーズにご覧いただけるようになりました
- ✓ 団体からご提供いただいた写真を掲載、活動内容をお伝えしやすくなりました
- ✓ 活動分野、事務所所在地、SDGs ゴールで絞込検索ができます
- ✓ ボランティアや寄附を募集している団体の絞込検索もできます
- ✓ ページから直接、団体への問い合わせができるようになりました



NPO・ボランティア団体データベース掲載団体も募集中！

団体データベースへの情報掲載を希望される団体のみなさまは和歌山県 NPO サポートセンターまでメールでお知らせください。専用入力フォームをご案内します。登録いただけるのは以下の項目です(一部項目は必須です)。掲載できるのは和歌山県内に拠点を置く NPO・ボランティア団体、一般社団・財団法人、公益社団・財団法人等の非営利組織です。

- 団体名・フリガナ
- 団体紹介(200文字以内)
- 他団体との連携可能性
- 団体の活動分野(NPO法に定める活動分野の分類に準拠)
- 寄付募集の有無とその用途
- ボランティア募集の有無と活動内容
- 団体連絡先住所
- 団体連絡先電話番号・FAX番号
- 団体連絡先メールアドレス
- 団体の活動拠点
- 団体責任者氏名
- ウェブサイト・SNSのURL
- 活動が該当するSDGsゴール番号
- 活動の様子の写真(1枚、横長)

NPO・ボランティア団体のイベント情報
イベント情報はこちらから。
みなさまからのイベント情報もお待ちしています。メールでお気軽にご連絡ください。



NPO・ボランティア団体を対象とした助成金情報
助成財団等から寄せられた助成金情報はこちらのページで随時更新しています。



【各種情報はメールマガジンでも配信！】
和歌山県 NPO サポートセンターに届くイベント情報や助成金情報等を毎月1日・15日(休館日と重なる場合は翌開館日)発行しているメールマガジンは右のQRコードから配信登録ができます。



和歌山県 NPO サポートセンター
和歌山市手平 2-1-2 和歌山ビッグ愛 9階
受付時間: 9:00 ~ 20:50 (日曜は 17:30 まで)
休館日: 月曜・祝祭日・年末年始
TEL 073-435-5424 FAX 073-435-5425
E-mail info@wakayama-npo.jp
和歌山県 NPO ホームページ「わかやま NPO 広場」
<https://www.wakayama-npo.jp/>

和歌山県 NPO・ボランティア推進協議会だより

なるコミふくろう菜園教室
野菜を上手に育てよう
「おてがるな家庭菜園」

「家庭菜園がうまくできない」「家庭菜園に挑戦したい」「直接農家に聞いてみたい」「農業に関心がある」といった方の参加を受け付けています。

日程 6月21日(水) 15:00 ~ 16:00
場所 なるコミ(和歌山市鳴神・宇都宮病院内)
定員 10組(申し込み必要)
内容 有機農業について学びます
参加費 500円(資料代)
主催 NPO 法人健康とコミュニティを支援するなるコミ
申込み 農業公園ふくろう(西野さん・080-3850-7220)
備考 以降も偶数月に開催予定

【このコーナーでは、和歌山県 NPO・ボランティア推進協議会加盟団体の主催イベント等の内容を不定期にお知らせしています】